

平成18年10月の解説（府県天気予報）

【10月の天候状況】

上旬半ばに低気圧が急速に発達しながら本州の太平洋沿岸を進んだため、東日本の太平洋側を中心に大雨が降りました。その後は高気圧に覆われて全国的に晴れの日が多くなりましたが、下旬の初めには日本付近を低気圧が通過してほぼ全国的に雨が降りました。北海道では頻繁に低気圧が通過したため2、3日周期で雨となりました。

月を通しての日照時間は北日本の太平洋側の地方では平年並、その他の地方では平年より多くなりました。降水量は北日本・東日本の太平洋側では平年より多く、平年の300%以上となった観測地点もありました。一方西日本と南西諸島では平年よりかなり少なく、平年の10%を下回った観測地点もありました。気温はほぼ全国的に平年より高くなりました。

【10月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で87%と例年（注）より4ポイント高く、明後日予報で86%と例年より7ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報はほとんどの地方で例年より高く、特に東海、九州北部、九州南部地方では8から11ポイント高くなりました。明後日予報も全ての地方で例年より高く、特に中国、四国、九州北部、九州南部地方では11から14ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差はほとんどの地方で例年より小さく、全国平均では例年より0.3 小さい1.4 でした。また、最低気温の予報誤差もほとんどの地方で例年より小さく、全国平均では例年より0.1 小さい1.4 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の天気予報から】

移動性高気圧に覆われた場合には晴れることが多いのですが、高気圧圏内でも雨が降ることがあります。高気圧の中心が東に移動した後、西から近づく低気圧によって雨が降り出す前に高気圧圏内の西側で雨が降る現象もその1つです。

10月22日にもこのような状況になりました（図1）。前日（21日）の夕方の天気予報では、東京地方の明日（22日）の天気を「晴れ夕方から曇り」と予報しました。これは21日に日本海にあった高気圧が関東地方の東に移動するにつれて、その南から西側を回って暖かく湿った南よりの風が関東地方に吹き込んで雲が発生しやすくなると予想したものの、本格的に天気が崩れるのは低気圧が関東地方に接近する23日になってからと見ていたためです。

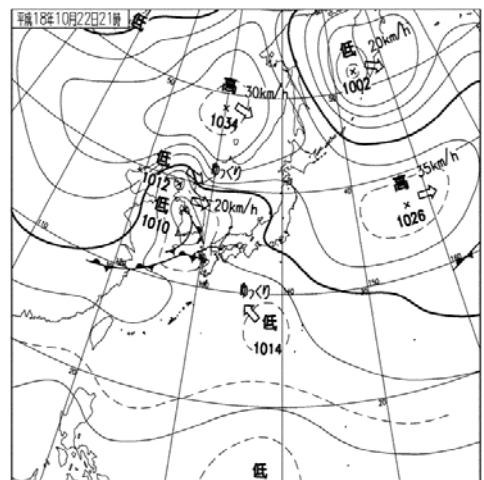


図1 2006年10月22日21時の地上天気図

ところが湿った南よりの風による影響が予想以上に早く、広範囲に出たため、関東地方では 22 日の夕方から所々で弱い雨が降り始め、雨の範囲はその後

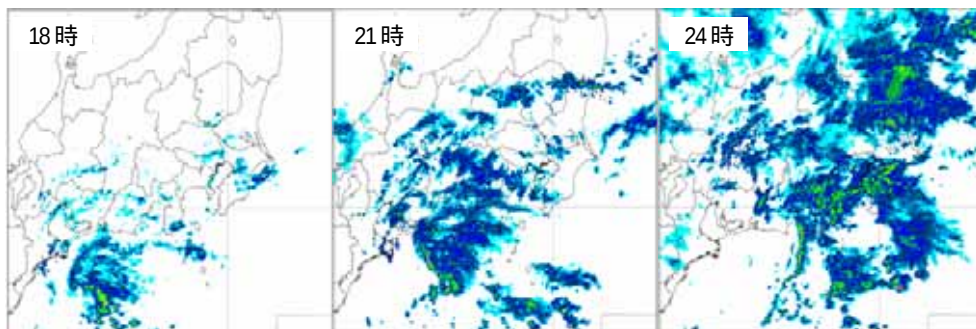


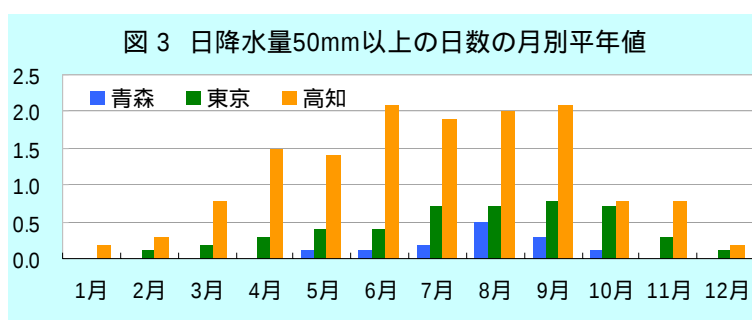
図2 2006 年 10 月 22 日夜のレーダー気象観測

関東地方全域と伊豆諸島に広がり、東京地方も全域で雨となりました（図 2）

この現象は、天気図の上では低気圧や前線のようなはっきりした形では現れません。この現象による降水を予測するためには、関東地方に流れ込む南よりの風の湿りの程度とその範囲を把握して、その影響を見極めることが重要になります。また、関東地方の局地的な大気の状態を正確に予想することも必要ですが、大きな規模の高・低気圧や前線などを予想する場合に比べて難しいことが、このような現象の予報を難しくしています。

【12月の天気予報の利用にあたって】

図 3 は日降水量 50mm 以上の日数の年値(1971 年から 2000 年までの平均)です。12 月に 1 日の降水量が 50mm 以上あったのは、年値で見ると東京では 10 年に 1 回、高知では 5 年に 1 回程度です。大雨が



降る頻度は、夏に比べて冬は少なく、また南の地方より北の地方で少ない傾向があります。これは気温が低いほど空気中に含まれる水蒸気の量が少なくなるためです。

頻度は少なくなりますが、冬にも時々大雨が降ることがあります。2004 年 12 月 4 日から 5 日にかけて低気圧が急速に発達しながら本州南岸に沿って東に進みました（図 4）。このため全国的に雨・風の強い大荒れの天気となり、西日本から東日本にかけての太平洋側の地方を中心に各地で 100mm から 200mm の大雨が降り、がけ崩れや浸水などの被害が発生しました。

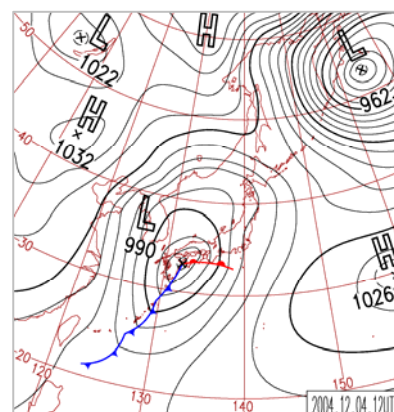


図4 2004 年 12 月 4 日 21 時の地上天気図

秋から冬にかけては大雨が降ることが少なくなりますので、側溝に枯葉などが詰まって水の通りが悪くなっていることに気づかないこともあります。水はけが悪くなっているところに大雨が降ると、付近より低くなっている土地では道路の冠水、家屋への浸水などの被害が起こります。この時期に大雨が降るような情報が発表された場合には、排水に不具合がないことを確認して大雨に備えましょう。